

ディベート・マッチ「消費税は必要か」－否定側の反対質問②－

否定側から肯定側への反対質問

安藤（否） 質問は変わりますが、なぜ消費税を作ったのか教えてください。

高橋（肯） 今の日本には直接税と間接税というものがあります。そして、今の日本の割合では直接税の方がとても多くなっています。直接税というのは、大きく分けて所得税や法人税などがあります。所得税については累進課税制度というものが導入されていて、高所得者からは、かなりの税金がとられていくことになります。こういう不公平が直接税には多くあるのです。これからは、間接税と直接税がちょうどよい割合で組み合わせられて政治が行われなければならないと思います。

安藤（否） ありがとうございました。では、次の質問で、消費税の仕組みがよくわからないのに子どもからとるのはおかしいのではないのでしょうか。

菅野（肯） 消費税の仕組みがわからないから、どんどん子どもとか老人まで払っていったって徐々にわかっていくので、その心配はなくなると思います。

黒須（否） もしも、仮に、4歳児の保育園の子がおもちゃを買おうとします。それでもそのかわいい子どもから消費税をとるのですか。

菅野（肯） 確かに、何のために小銭を払うのかという疑問が起こるかと思いますが、だいたいその具体的なことがわかるだけでも消費税について知ることは効果大だと思います。

柴木（否） 消費税で小遣いが減るんですけど、それはどうなんですか。

高橋（肯） それは、自分たちのお父さんの給料が消費税によって減らされているのと同じようにやはり大人が減らされているんだったら子どもの自分も我慢しなければならないのではないのでしょうか。

黒須（否） 資料をご覧ください。日本が消費税を導入したのは1989年です。それに比べて欧米諸国はこれよりも以前から消費税を導入しています。欧米諸国を見ると、導入時の税率より今の税率は増加しています。ですから、日本も将来、欧米諸国のように税率が増加してしまっ立論で述べた不公正がますます開いてしまうのではないのでしょうか。

高橋（肯） それは、国が必要とする・・・

司会 時間です。これから2分間の作戦タイムになります。判定員のみなさんは判定表に書き込んでください。